Point

2019/8/29 No. 2
ＪＲ東労組青年部
（東日本旅客鉄道労働組合青年部）
発行責任者　藤澤　将次

ＪＲ東労組青年部　第34回定期委員会「委員会宣言」

委員会宣言（~~案~~）

JR 東労組青年部は 8 月 27 日 JA 共済埼玉ビルにおいて第 34 回定期委員会を開催し、いかなる組織破壊攻撃にも屈せず、全ての運動を組織強化・拡大に傾注し、組織の存亡をかけ奮闘していくことを決定した。

19 春闘は 18 春闘の大敗北総括に踏まえ、春闘の三原則に基づき情勢認識を一致させ、たたかいを推し進めてきた。闘申 1 号の議論経過を正しく振り返りながら、嘘やデタラメによって多くの仲間の信頼を失墜させてしまった事実を明確にしてきた。さらに、成果を一方的に押し付けてしまった反省から、一人ひとりの率直な感想を掴み議論することで、納得感や分かりやすさのある 19 春闘をつくりだすことができた。決してスト権に頼ることなく、それぞれが思い感じたことを素直に出し合う青年部組織を今後もつくっていかなければならない。

青年部の将来に関わる施策が矢継ぎ早に打ち出されている。情勢分析の誤りがあった 18 春闘を捉え返し、「働き方改革」を学ぶことで「変革 2027」により職場や働き方がどのように変化していくのか、施策にどのように向かっていくべきか議論を深めてきた。「系統別意見交換会」では職場の現実を共有し、施策に対し「白紙撤回」や「反対」を叫ぶのみでは、雇用や利益を守っていくことはできないことを確認してきた。今後も新生 JR 東労組青年部は職場現実を正しく掴み、組織の信頼回復と青年部員の声を第一に考え、施策に向き合っていく。

あらゆる難局に立ち向かうためには、「組織力」を高めなければならない。その大前提は組織の総団結である。組織の総団結を目指し向き合ってきた一方で、中央選挙管理委員会宛の異議申立・委員名簿がホームページに掲載された。多くの青年部員から「名前を権力に売り渡す行為」「これでは、ＪＲ東労組に再結集する気持ちにはなれない」「まだ組織が一体になれないのか」などの声が寄せられた。「5 ちゃんねる」や「真実の声」への掲載を引き起こしていることを見ても、多くの青年部員の不信感を生み出したことは事実である。

さらには「真実の声」の発信者が、東京地方本部に派遣されている中央執行部員の畠山浩信君であることが判明をした。12 地本で組織破壊と確認した「真実の声」に加担していたことは組織破壊であり、犯罪行為である。JR 東労組青年部は「真実の声」と軌を一にする組織破壊者と同調する者を断じて許さない。第 34 回定期委員会決定に基づいて、指令 7 号における事実経過を全青年部員に明らかにし、組織破壊を許さない青年部組織を確立していく。そして、「青年部の必要性」を明確にし、みんなで決めたことを守るという当たり前の青年部運動を推し進め、「嘘・誤魔化し」に惑わされることのない青年部組織の再構築を目指していく。

7 月に行われた参議院選挙では、自民・公明の連立政権が、124 議席中過半数の 63 議席を確保した一方、改憲発議に必要な 3 分の 2 を確保することはできなかった。しかし、安部首相は「国民の審判は下った」とし、改憲議論の加速に向けた意欲を示している。私たちは「5.15 沖縄平和行進」や「ヒロシマ現地学習行動」を通じて、戦争の本質と民意を無視し続け、弱きものを弾圧する現実を学んできた。「過去を振り返らない者は同じ過ちを繰り返す」といった先達の訴えが、今まさに私達自身に問われている。決してトップダウンではなく、納得感のある平和運動を今後も創り出し、平和な社会の実現に向け組織の総団結をもって奮闘していく。

新生 JR 東労組として歩を進めている中、「新生として何が変わったのか分からない」「組織のゴタゴタがある以上再加入できない」という声が職場から出されている。更には労働者代表制の法制化の動きが目の前まで迫っている中、「労働組合は必要ない」という風潮が社会的に増していくことが予想される。

私達は、組織の総団結と信頼回復を前提に、労働組合の存在意義を捉え返し、離脱を余儀なくされた仲間に新生 JR 東労組の魅力を自らの言葉で語り、再結集を呼びかけていかなければならない。

今こそ一人ひとりの力を結集し、組織強化・拡大の取り組みをさらに前進させなければならない。将来を担う私たち青年部の未来を展望し、青年部組織の再構築を目指し、全青年部員で新生ＪＲ東労組青年部運動を推し進めていこうではないか。

以上宣言する。

２０１９年８月２７日
東日本旅客鉄道労働組合青年部
第３４回定期委員会